

FU系薬剤の modulator として CDDP の併用の有用性も報告されている。今回、進行胃癌に TS-1 + low dose CDDP 療法が著効を奏した症例を経験したので報告する。

〔症例〕65歳女性、胃体上部に2型の胃癌を認め、生検にて por 2 の診断。CT で胃小弯に4cm大のリンパ節腫大を認めた。TS-1 80 mg を連日、CDDP 5 mg を1週間に5投2休で4週間を1クールとして術前化学療法を行った。2クール施行し、リンパ節は1cmに縮小した。内視鏡上原発巣もPRの診断であり、3週間の休薬の後に胃全摘、D3郭清を施行。病理学的検査にて原発巣、リンパ節に癌細胞を認めず組織学的にCRの診断を得た。術後経過は良好で、経過観察中である。

## 5 TS-1/CDDP 療法が奏効した穿孔性高度進行胃癌の1例

山田 明・齊藤 文良 (新潟医療生活)  
齊藤 素子・横山 義信 (協同組合)  
湯口 卓・阿部 要一 (木戸病院外科)

穿孔性高度進行胃癌に対して TS-1/CDDP 療法が奏効した1例を経験した。症例は、67歳男性で、平成13年11月11日突然の腹部激痛で来院した。レントゲン、CT 検査にて、腹腔内遊離ガス像、胃腫瘍、リンパ節転移、肝転移を認め、胃癌穿孔による汎発性腹膜炎と診断し手術を行った。胃体部にリンパ節転移と一塊なった癌 [T3N3H1P0M1 (LYM) Stage IV] を認め、前壁穿孔部を大網充填、胃瘻造設と肝転移生検を行った。術後内視鏡で胃体部の5型癌 (por 1) を確認し、全告知後 TS-1/CDDP 療法を行った。2クール施行後に、嚥下困難は消失、食事摂取も良好となり、主病巣、肝転移、リンパ節転移巣の著明な縮小を認めた。現在1コースを終了し、治療継続中である。

## 6 メシル酸イマチニブ(グリベック)が奏効した切除不能再発 GIST の一例

大橋 学・神田 達夫  
西巻 正・中川 悟  
田邊 匡・本間 英之  
松木 淳・牧野 成人  
金子 耕司・池田 義之 (新潟大学大学院)  
島山 勝義 (消化器・一般外科)  
高桑 一喜 (済生会三条病院)  
外科

メシル酸イマチニブ(グリベック)は慢性骨髄性白血病の Ph 染色体遺伝子産物 Bcr-Abl チロシンキナーゼを選択的に阻害する分子標的治療薬である。この薬剤は癌原遺伝子の c-kit によって産生される KIT も強力に阻害するため、c-kit を表出する胃腸間葉系腫瘍 (GIST) への第二相試験でも約60%の奏効が得られた。我々は切除不能な GIST に対してグリベックを投与し、劇的な奏効が得られた症例を経験した。症例は50歳女性で1992年に胃平滑筋肉腫 (c-kit 陽性) の診断で幽門側胃切除術が施行されて以来、肝転移、腹膜播種に対して腫瘍切除術が施行された。2001年12月の腹部 CT で左上腹部に最大径 23 cm の再発巣が指摘され、切除不能と判断された。グリベック 400 mg/日が開始され、1か月後の CT では腫瘍の縮小と液状化が認められた。2か月後には投与前の約30%となり、現在4か月経過し増悪なく生存している。

## 7 異時性6重複癌の1例

清水 大喜・河内 保之  
宮原 和弘・諸田 哲也 (長岡中央総合病院)  
新国 恵也・清水 武昭 (外科)

癌の早期発見と治療成績の向上により、重複癌は増加している。現在77歳の男性。家族歴なし。

(第1癌) 1987年、胃癌、幽門側胃切除、中分化腺癌、深達度 ss、リンパ節転移なし。

(第2癌) 1991年、S状結腸癌、S状結腸切除、高分化腺癌、深達度 ss、リンパ節転移なし。

(第3癌) 1992年、下行結腸癌、左結腸切除、乳頭腺癌、深達度 mp、リンパ節転移なし。

(第4癌) 1994年、盲腸癌にて内視鏡的切除、中